

## ラット回腸に存在する空胞化細胞の出現時期の検討

桐生短大・生活科学 ○城田恵次郎・栄 昭博・野中博雄・関崎悦子・関崎 仁

**目的：**演者らは、本学会の第41回の全国大会において、杯細胞（以下、G・Cと略す）と空胞化細胞（以下、V・Cと略す）の形態学的な比較について報告した。本実験では、とくにV・Cに焦点をあて、その出現時期を光学顕微鏡ならびに電子顕微鏡により形態学を中心に比較検討をおこなった。

**材料と方法：**実験に使用した材料は、胎生18日目と19日目の lar:Wistar Imamichi ラットを財団法人動物繁殖研究所（埼玉）から入手した。各動物の屠殺解剖方式は、頸椎の脱臼を行い、その直後に開腹を行い腸を採出した。採出した腸は Zamboni 液に浸漬固定を実施した。その後、通常の方法でパラフィン包埋し、約3~5 μm で薄切を行った。染色の種類は、Hematoxylin-Eosin 染色（以下、H・Eと略す）、Periodic Acid Schiff reaction（以下、PASと略す）、Alcian blue 染色（以下、AlciBlと略す）などである。染色後は、通常の方法で、脱水・透徹および封入を行った。電顕については、電顕用固定液で腸を固定し、その後、再固定し、エポキシ樹脂に包埋し、ウルトラミクロトームで超薄切を行った。電子染色は、酢酸ウランと硝酸鉛の二重染色し、透過型電顕で観察した。

**結果：**（1）胎生18日目の回腸に腸絨毛が見られ、そこに空胞化した細胞は、見られなかった。（2）胎生19日目の回腸の腸絨毛上皮に、空胞化した細胞が見られた。